

# 京都刑務所敷地の活用を核とする 未来の山科のまちづくり戦略（素案）

～山科の発展に向けた土地利用を目指して～

## 皆様の御意見を募集しています。

京都市では、今年度、山科区の今の姿や将来見通しを踏まえ、「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」（以下「戦略」といいます。）を作成することとしています。

この戦略は、山科の将来を見据え、子どもや孫の世代になっても、山科が持続可能で活気に満ちた魅力的なまちであるために、未来の山科にとって大きな可能性を秘める京都刑務所の敷地活用をはじめ、京都の東の玄関口である山科駅前エリア、区内最大規模の集合住宅地で高齢化が顕著な山科団地エリアの活性化など、これからの山科のまちづくりの方向性を示すものです。

戦略の作成に当たっては、区民アンケート（平成28年度実施）で約6割の皆様が移転に肯定的な回答をされていること等を踏まえつつ、学識経験者や地元代表者等で構成する「山科の未来を語る懇談会」や、山科区内の13学区の自治連合会会長の皆様への説明会を開催し、御意見を頂きながら、検討を進めています。

この度、懇談会や説明会での御意見等を踏まえ、戦略（素案）を取りまとめましたので、市民の皆様からの御意見を募集します。

京都刑務所は、昭和2年に、当時はまだのどかな田園風景が広がる現在地に移転されましたが、その後90年以上が経過する中で、周辺の宅地化が進むとともに、地下鉄東西線や京都高速道路が開通し、交通利便性が飛躍的に高まるなど、周辺環境は大きな変貌を遂げました。

現在、市内の都市部で約10.7ヘクタール（3万2千坪）という広大な土地を確保することは極めて難しく、京都市では、この土地の活用が山科区の魅力あるまちづくりはもとより、京都全体の発展にも大きく寄与するものと考えており、これまでから、国に対して刑務所の移転をはじめとした有効活用を要望しています。

### ■ 募集期間

平成30年11月9日（金）～平成30年12月10日（月）【必着】

### ■ 応募方法

御意見は、郵送、FAX、電子メール、京都市ホームページ内の送信フォーム、持参のいずれかの方法により御応募ください（詳細は、本資料の11ページを御覧ください。

市民による自治120年





# 1. 戦略策定の目的

## (1) 京都市が京都刑務所など国有地の有効活用に取り組む趣旨

京都市では、京都の未来を見据え、更なる経済の活性化、人口減少社会の克服など、京都の発展に向けてまちづくりを進めていくためには、本市が所有する土地だけでなく、国有地、さらには民有地を含め、あらゆる土地の利用の可能性を追求することが重要であると考え、交通利便性の高い市街地に所在する国有地等について、魅力あるまちづくりに資する有効活用を実現しようと取組を進めています。

## (2) 魅力あふれる山科のまち

山科は、1400年を超える歴史と豊かな自然に恵まれ、住民自治の伝統が脈々と受け継がれ、人とのつながりがとても温かいまちです。また、区内には、JR線、京阪線、地下鉄が走り、高速道路のインターチェンジが2箇所設置されているなど、交通利便性の高いまちです。さらに、近年は、犯罪件数(刑法犯認知件数)が6年間で6割も減少し、今では市内 11 行政区で人口当たりの犯罪件数が2番目に少ない安心安全のまちになりました。

こうしたこともあり、平成29年の人口の社会動態では4年ぶりに転入超過となりました。

## (3) 将来の山科のまちの見通し

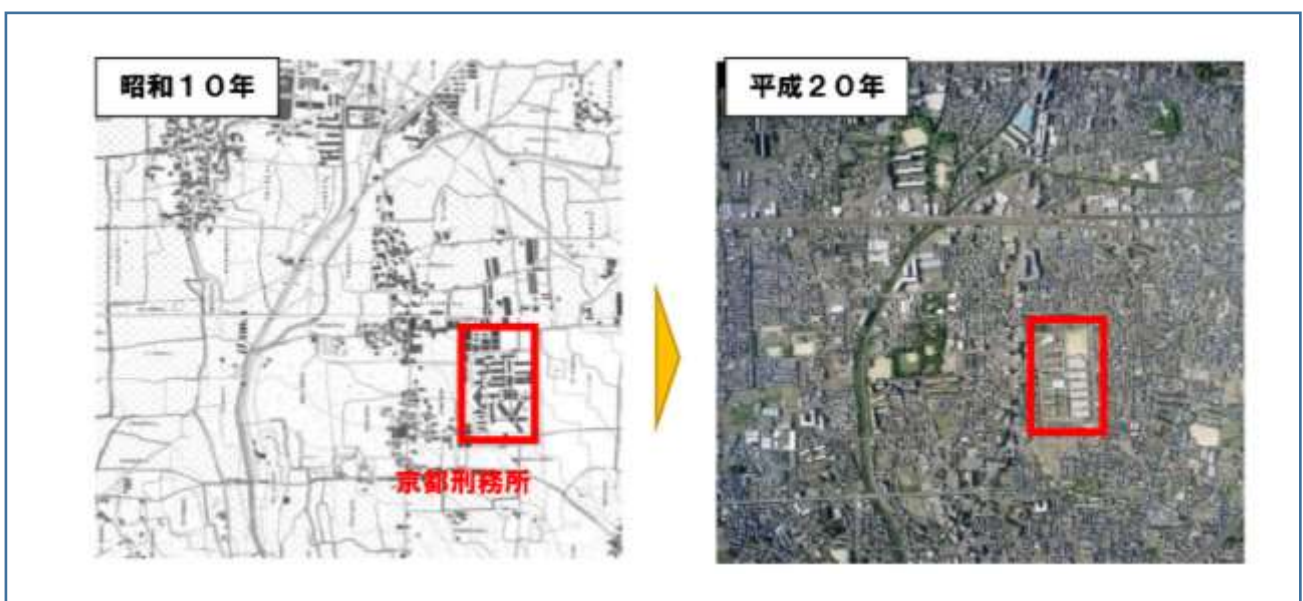
そんな山科区が、今、大きな時代の転換点を迎えています。

昭和30年から昭和51年にかけて急増した人口は、昭和55年以降ほぼ横ばいで推移していましたが、これからは本格的な人口減少社会に突入し、高齢化や少子化が一層進みます。人口の減少は、経済の縮小や地域コミュニティの機能低下、空き家の増加など、深刻なまちの活力の低下をもたらします。

## (4) 「未来の山科のまちづくり戦略」

そこで、京都市では、子どもや孫の世代になっても山科が活力に満ちた魅力的なまちであるために、山科の未来にとって非常に大きな可能性を秘める京都刑務所の敷地活用を核として、これからの山科の持続可能なまちづくりの方向性を示す指針として「未来の山科のまちづくり戦略」を作成します。

今後、本戦略に掲げる刑務所敷地の活用案を国に提示し、刑務所の移転をはじめとする有効活用の更なる検討を要望してまいります。



## 2. これからの山科区のまちづくりの方向性

今の山科区の姿と将来のまちの見通しを踏まえ、子や孫の世代になっても、山科が持続可能で活力に満ちた魅力的なまちであるために、これからのまちづくりの方向性を設定します。

### 今の山科区

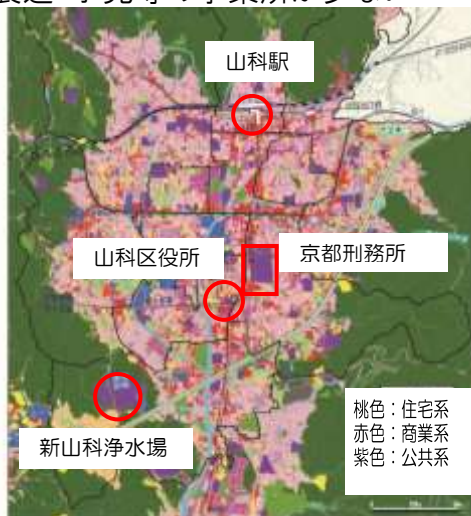
### 将来の見通し

#### 山科の魅力

- 市民力、地域力が強い
- 安心安全のまち
- 交通の利便性が高い
- 豊かな自然、多くの歴史・観光資源が存在

#### 山科の「まち」

- 盆地内部は宅地化が進み、ほぼ大半が住宅地
- 新たに活用できるまとまった土地が乏しい
- 製造・小売等の事業所が少ない

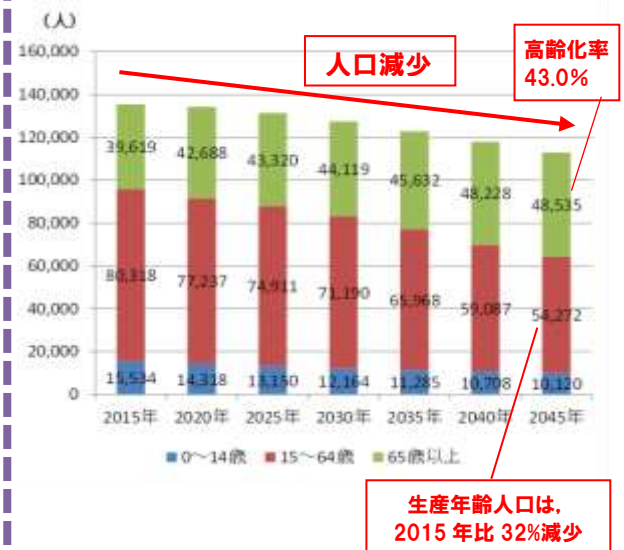


出典：国土地理院資料

#### 人口構造の変化

- 約30年後の2045年には、
  - ・人口は、約17%減少  
(全市平均：約12%減少)
  - ・生産年齢人口は、約32%減少  
(全市平均：約23%減少)
  - ・高齢化率は、43.0%に上昇  
(全市平均：36.4%)

#### 将来の人口推計(実数)



出典：日本の地域別将来推計人口 平成30年推計

#### 山科の「ひと」

- 昭和期に人口が急増したが、近年は緩やかに減少
- 高齢化が急速に進行  
(直近では市内11行政区で2番目に高い)
- 生産年齢人口が急速に減少  
(直近では市内11行政区で最も少ない)
- 出生率は高いものの、小学生の年代になると親子で区外へ転出する傾向がみられる

#### 空き家の増加

- 人口減少に伴い、市街地の人口密度が減少
- 空き家の増加

経済の縮小やコミュニティの機能低下、空き家の増加など、  
まちの活力の深刻な低下をもたらすおそれ

**<目指す姿>**  
住んで、働いて、訪れて、楽しく美しいまち・山科へ！

これを実現するためには…

## これからの山科区のまちづくりの方向性

### (1) 若者から高齢者まであらゆる世代が住みよいまち・コミュニティの維持

山科は、自然に囲まれ、豊かな歴史を持ち、京の東の玄関口として交通利便性の高い住宅地として発展を続けてきました。

地域の行事や、多世代のコミュニティの繋がりがしっかりと引き継がれ、住みやすいまちとして区民の皆さんにも評価されています。

この良さをしっかりと守り、若者から高齢者まであらゆる世代が、山科に愛着を持ち、山科に暮らしたい、住み続けたい、住んで良かった、と心から実感できるまちづくりを進めます。

### (2) 子育て世代など新たな定住者を呼び込むまちづくり

まちの持続的な発展には、次代を担う子ども、子育て世帯に山科に住んでもらうことが重要です。しかし、現状では、子育て層の減少傾向が見られ、まちの実態とイメージのギャップも指摘されています。

このため、事業所誘致を進め、今以上に雇用の場を生み出すことに加え、より良好な住環境や教育環境を創るとともに、山科の持つ魅力や資源、コミュニティのつながりを活かし、子どもや子育て世帯に山科で暮らしたい、暮らし続けたいと思ってもらい、定住へと繋げるまちづくりを進めます。

### (3) 次代の山科の魅力を創り出すまちづくり

山科区は、豊かな自然や多くの歴史・観光資源があり、交通利便性が高いほか、地域コミュニティの繋がりが強く、安心安全なまちであるなど、暮らす魅力に溢れています。

子や孫の世代になっても、まちが持続可能で活力に満ちた魅力的なまちであるために、こうした山科の魅力をしっかりと発信しながら活かすとともに、次代に向けて、山科のまち全体のイメージを大きく変革する、新しい魅力を創造するまちづくりを進めます。

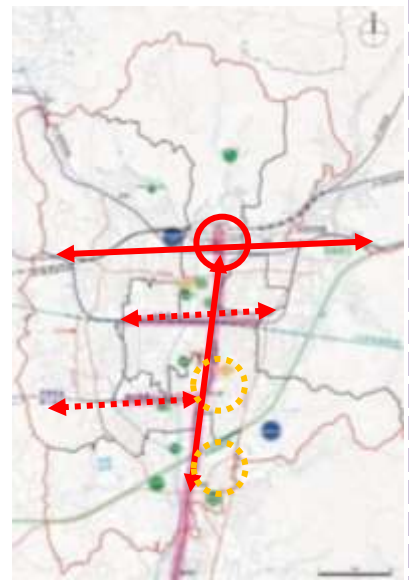
### 3. まちづくりの方向性を実現するうえでポイントとなるエリアの設定

子どもや孫の世代になっても、山科が持続可能で活力に満ちた魅力的なまちであるよう、これからの山科区の土地の利用のあり方を含めたまちづくりの方向性を実現するうえでポイントとなるエリアを設定します。

#### A

#### まちの構造から考える

- 東西(JR, 地下鉄等の鉄道/国道 1 号, 三条通等の幹線道路)+南北(地下鉄, 外環状線)のT字型のまちの構造を活かした活性化が必要です。
- 賑わい創出拠点となっている山科駅周辺の一層の活性化が必要です。
- 人の流れを作り, まちや人が生き生きとするため, 山科駅周辺以外の賑わい創出拠点を形成し, 拠点をつなぐ必要があります。
- 山科のまちの構造上, 山科駅周辺と柳辻駅周辺は, まちの賑わい拠点となっており, 両者をつなぐことで, 山科の活性化に繋げることができます。



#### B

#### ひとの状況から考える

- 人口は, ここ数年はゆるやかに減少しています。
- 今後, 高齢化が進み, 生産年齢人口が減少する中, 若い世代を呼び込む取組が必要です。
- 高齢者と若い世代の交流や地域コミュニティ・つながりの維持・活性化など, 暮らす魅力を高める取組が必要です。

高齢化率の山科区と学区の比較(平成 27 年)

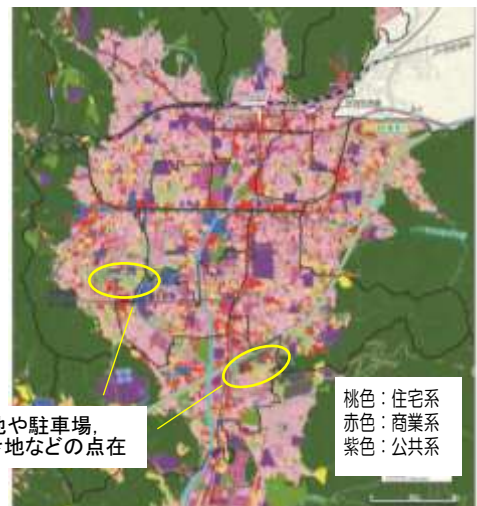


出典: 国勢調査

#### C

#### 土地利用・今後の変化から考える

- 盆地内部は宅地化が進み, まちの魅力を創出するために活用できる土地が乏しい現状です。
- 一部, 新十条通北部, 名神高速道路南部に農地や駐車場, 空き地などが点在しており, 山科の魅力創造に向けた有効活用が期待できます。
- 平成 31 年 4 月から京都高速道路新十条通が無料化される予定です。
- 国道 1 号バイパス(京都府~滋賀県)建設構想に向けた検討も進められつつあります。



農地や駐車場, 空き地などの点在

出典: 国土地理院資料

## 【5つのエリア】

### ①山科駅前エリア (A)

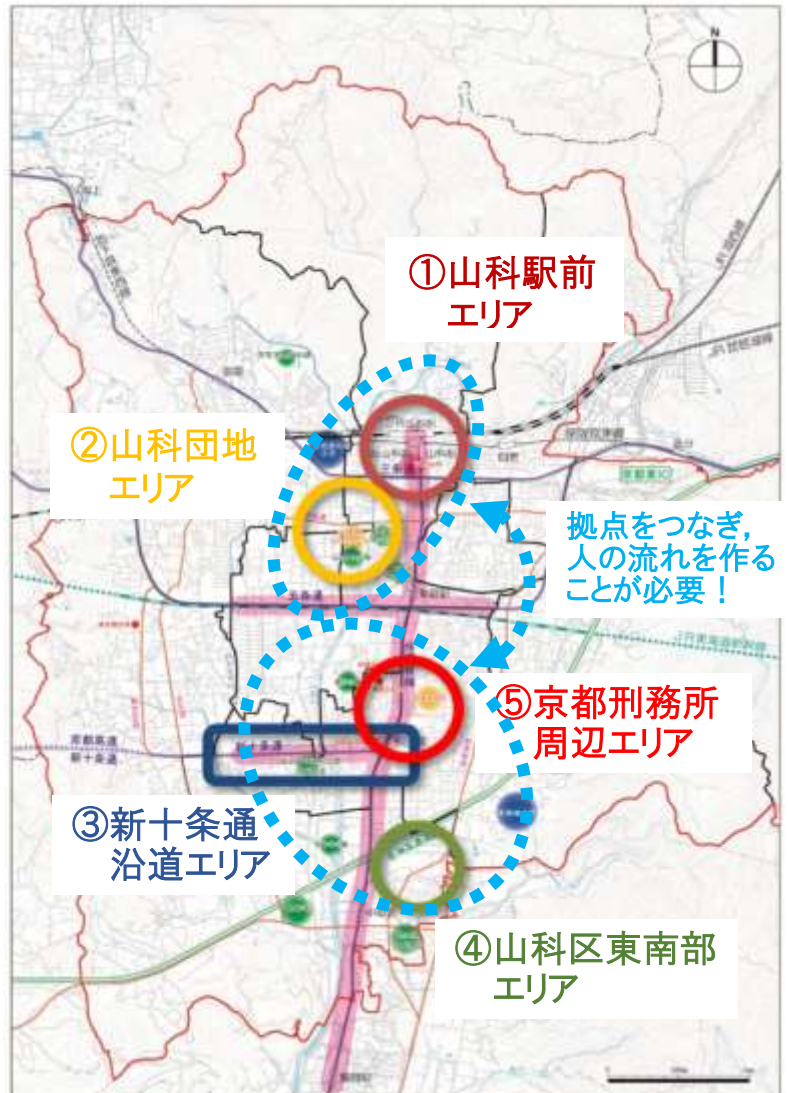
○京都の東の玄関，山科の顔であるエリアであり，更に賑わいを創出することが期待できるエリア

### ⑤京都刑務所周辺エリア (A+C)

○行政施設に加え，外環状線沿道に商業施設も集積しつつある  
○市が移転要望を実施しており，実現後の土地利用により山科の魅力創出に向けて非常にポテンシャルの高いエリア

### ②山科団地エリア (B)

○山科で最も大規模な市営住宅，公社分譲住宅などの共同住宅が集積するエリア  
○共同住宅率が75%もあり，今後，急激に高齢化が進む可能性が高い  
○子育て世代の入居促進などにより，高齢化が進む団地の活性化に向けた先進的事例を検討するエリア



### ③新十条通沿道エリア (C)

○沿道北部に農地や平面駐車場，空き地などが点在しており，今後，京都高速道路新十条通の無料化等で，山科の魅力創出に向けた有効活用が期待されるエリア

### ④山科区東南部エリア (A+C)

○外環状線や地下鉄小野駅にも近接する一方で，市街化調整区域が残されていること等を踏まえ，山科の魅力創出に向けた方策の検討が期待されるエリア

## 4. 5つのエリアの状況及び今後のエリアの方向性

### ①山科駅前エリア

#### エリアの状況

- ア JR、京阪京津線、地下鉄東西線の3路線が交わる山科駅の1日平均乗車人員は約5万8千人(平成28年度。市内で3番目に多い。)で、京都の東の玄関口です。
- イ 市街地再開発事業により平成10年にラクト山科がオープンし、公共施設や商業施設、商店街等も接続する区の拠点となっています。
- ウ 現在、山科駅周辺で、マンションの立地が進んでいます。
- エ ラクト山科A棟ホテル(京都山科ホテル山楽)が、平成30年10月に、リニューアルオープンしました。
- オ ラクト山科ショッピングセンター内に出店している大丸山科店が平成31年3月末で閉店し、京阪系列の新たな商業施設として、同年11月にオープンする予定です。



#### エリアの方向性

京都の東の賑わい拠点として、駅周辺を更に活性化するための方策を検討。

#### 具体的な取組例

- 駅周辺の商業施設について、駅利用者、とりわけ若年層を含む幅広い層を惹き付け、回遊性を高め、滞在時間を増やすような店舗構成の検討

### ②山科団地エリア

#### エリアの状況

- ア 山科市営住宅は昭和45~46年に建設され、全3棟、管理戸数は986戸です(トータルリモデル実施済)。
- イ 居住者の高齢化が進んでおり、入居戸数911戸のうち、高齢者を含む世帯数628戸(全市で2番目に多い)で、さらに高齢者の単身世帯数は330戸(全市で1番多い)です。
- ウ 敷地北及び西側は戸建住宅地で、東・南側は公社集合住宅(分譲:7棟, 1,095戸)で囲まれています。



#### エリアの方向性

子育て世帯を呼び込むとともに、大学との連携や学生との交流等による活性化、コミュニティ強化を図るための方策を検討。

#### 具体的な取組例

- 子育て世帯優先入居枠の拡充の検討
- 市営住宅の入居者や公社分譲住宅の居住者を対象とした見回りや居場所づくり等の取組の検討



### ③新十条通沿道エリア

#### エリアの状況

- ア 平成 20 年 6 月に、京都高速道路新十条通の供用が開始されました。
- イ 新十条通は、利用者数が少なく、並行路線である国道1号や外環状線で交通渋滞が発生している状況です。このため交通分担の適正化を図る目的で、新十条通の京都市への移管を要望し、平成 31 年4月から無料化される予定です。
- ウ 沿道は第二種住居地域、一部準工業地域(容積率 300%)です。
- エ 沿道には、旧安祥寺川沿いを中心に企業立地が見られる他、農地や駐車場、空き地等も分布しています。
- オ 今後、沿道の交通量増加とあわせて山科のまちの活性化や魅力の創出に向けて、更に有効利用できる余地があります。



#### エリアの方向性

山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加を図るため、沿道エリアの有効活用を促進する方策を検討。

#### 具体的な取組例

- 沿道エリアについて、新十条通の無料化後の状況等を踏まえ、定住の受け皿となる宅地や、産業集積を図るための産業用地の創出など、有効活用に向けた方策を検討、同時に、交通量増加への対応も検討

### ④山科区東南部エリア

#### エリアの状況

- ア 山科区は、盆地平坦部はほぼ市街化区域に指定され、市街化されていますが、一部、市街化調整区域が残されています。
- イ 市街化調整区域では、原則、開発行為や建築行為が制限されています。
- ウ 介護老人保健施設や物流施設などがありますが、農地等を主体とした土地利用で、周辺は宅地化されており、西部、南部は戸建て住宅が建築されています。
- エ 外環状線に接し、地下鉄小野駅から近く、交通利便性の高いエリアです。



#### エリアの方向性

山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加、企業誘致による雇用創出を図るため、この地域のまちづくりのあり方を検討。

#### 具体的な取組例

- 都市基盤整備状況や現在の土地利用状況を踏まえ、地域のまちづくりのあり方を検討

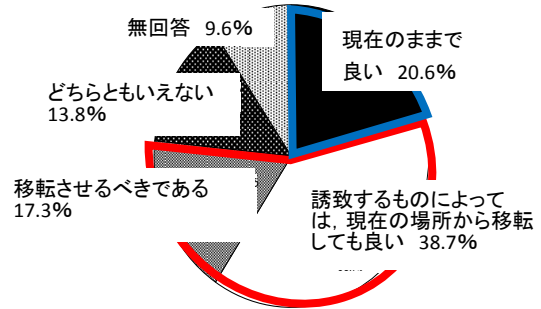
## ⑤ 京都刑務所周辺エリア

### エリアの状況

ア 京都刑務所は、昭和2年に、当時はまだ田園風景が広がる現在地に移転されました。  
 イ その後 90 年が経過する中で、周辺の宅地化が進むとともに、地下鉄東西線や京都高速道路が開通し、交通利便性が飛躍的に高まるなど、周辺環境は大きく変貌を遂げました。



ウ 現在、山科区役所周辺や外環状線沿道に集積する商業施設への人の流れが生まれています。  
 エ 平成 25 年 4 月から、市が法務省に、京都刑務所の将来の跡地活用等の検討を要望しました。  
 オ 区民アンケートによると、移転に肯定的な回答は約 6 割となっています。



### <エリアの方向性>

刑務所敷地は 10.7ha と、宅地化が進んでいる山科区だけでなく、市内でもこれほど広大な土地の確保は困難な状況です

刑務所敷地は利便性の高い区の中心部に位置し、その有効活用は、今後の山科のまちづくりに非常に大きな可能性・インパクトを与えます

敷地の活用により、山科のまちのイメージを大きく変革し、持続可能でより魅力ある、安心・安全なまちづくりを促進することが期待されます

山科の活性化の起爆剤として、さらには、市の将来の持続的な発展、国策としての地方創生の観点から、まちづくりの方向性に沿って、京都刑務所敷地の活用策を検討します。

### <望ましい導入機能>

#### <居住>

子育て世代から高齢者まで、あらゆる世代が住みよい、安心・安全で、住宅地としてのイメージアップに繋がる良好な居住環境を備えたまち

#### <新産業、働く場>

世界最先端の研究開発を行う企業誘致・産業集積を図り、安定した所得と新たな雇用を生み出し、定住者を呼び込むとともに、地域経済の成長を牽引し、好循環を実現するまち

#### <学び、交流>

学生、区民が学び、集い、交流する場となり、教育・生涯学習環境の向上にも繋がる大学等の教育施設が立地するまち

#### <文化・ものづくり・観光>

伝統産業等の資源を活かした文化・ものづくりの体験・発信・交流拠点を備えた新たな魅力を創造するまち

## 京都刑務所敷地の活用法(導入機能・施設の展開例)

敷地の活用に当たっては、

- ① 10.7haもの広大な敷地であることや、複合的な活用による相乗効果が期待できることから、単一の機能・施設での活用ではなく、以下に示す例のうち複数の機能・施設を融合した多様な活用が望ましいと考えています。
- ② また、導入される個々の施設が周囲に対して閉鎖的でなく、外から見ることができ、内外の交流を促進するよう、デザイン面での配慮や、周辺道路等の交通基盤のあり方、周辺環境との調和等についても慎重に検討する必要があります。

### 定住を促し、暮らしを豊かにする機能

緑豊かで潤いと  
ゆとりのある  
良質な住宅

生活の利便性を  
高め、賑わいを創出  
する商業施設

子育て層、高齢者層など  
区民の安心な生活を支える  
福祉・子育て支援施設

<期待される効果(例)>

- ・安心・安全で良好な居住環境の整備
- ・居住イメージの向上

<期待される効果(例)>

- ・地域の雇用の創出
- ・職住近接の環境整備
- ・居住イメージの向上

### 安全・安心を 向上させる機能

高度かつ先進的な  
防災機能を備えた  
オープンスペース

### 文化・ものづくり・ 観光を創造する機能

山科で連綿と継承される  
伝統産業や地元農産物等  
を活かした、文化・ものづくり  
の体験・交流・発信施設

山科のイメージを  
大きく変革し、かつ、  
新たな魅力を創造するため、  
これらのうち、複数の  
機能・施設を導入

### 産業を創造する機能

世界トップクラスの研究者・  
技術者が集い、京都ブランドを  
活かしたAIなど世界最先端の  
研究開発を行う研究機関・企業

<期待される効果(例)>

- ・研究者・技術者と  
学生との交流による  
新たなイノベーションの創出、  
優秀な人材の育成

<期待される効果(例)>

- ・芸術家・職人と学生との交流による、  
多様な感性による創作活動の促進、  
優秀な芸術家や担い手の育成

学生、区民が  
学び、集い、交流できる  
大学等の教育施設

### 教育・学びを高め 交流を促進する機能

柳辻駅方面

外環状線沿道や柳辻駅周辺のより一層  
の賑わい創出、機能集積も誘導

## 5. 戦略の推進に当たって

本戦略に掲げた「目指す姿」を実現するためのまちづくりの方向性については、行政が主として取り組むものもありますが、行政だけで全てを実現できるものではなく、山科ならではの地域力・市民力、民間の知恵と力を活かしていく必要があります。とりわけ、広大な面積を有する京都刑務所敷地の活用は、民間による活用が基本であると考えており、その実現に向けて、国の理解を得ながら進めていく必要があります。

こうしたことから、本戦略に掲げる「目指す姿」やまちづくりの方向性を、まちづくりの主体となる市民、事業者、大学、行政等が共有し、適切な役割分担のもとに、関係者との協働で、知恵と力を出し合いながら進めてまいります。

**募集期間 平成30年11月9日（金）～平成30年12月10日（月） 《必着》**

## 1 応募方法

郵送，FAX，電子メール，京都市情報館（京都市ホームページ）内の送信フォーム，持参のいずれかで「京都市 総合企画局 プロジェクト推進室」まで御応募ください。様式は問いませんが，このページの裏面を応募様式として使用することができます。

### 応募・問合せ先

〒 604-8571（住所の記入は不要） 京都市 総合企画局 プロジェクト推進室

【電話】 075-222-3984

【FAX】 075-213-0443

【電子メール】 project@city.kyoto.lg.jp 【送信フォーム】 下記3のURLを参照

## 2 御意見の取扱いについて

意見募集の結果は，後日，京都市情報館（京都市ホームページ）においてお知らせする予定です。御意見に対する個別の回答はいたしませんので，あらかじめ御了承ください。

なお，この意見募集で収集した情報は，「京都市個人情報保護条例」に基づいて適切に取り扱い，他の目的に利用することは一切ありません。

## 3 その他

このパンフレット及び「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略（素案）」の全文は，京都市情報館（京都市ホームページ）の市民意見のページで御確認いただけます。

### アクセス方法

【トップページ】 → 【市政情報】 → 【市民参加】 → 【市民意見（パブリックコメント）】  
→ 【「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略（素案）」の市民意見募集について】

(<http://www.city.kyoto.lg.jp/templates/pubcomment/sogo/0000244336.html>)

御意見記入用紙 【FAX：075-213-0443】

【御意見がある項目】（番号に○をつけてください）

- 1 戦略策定の目的（京都市が京都刑務所など国有地の有効活用に取り組む趣旨 等）
- 2 これからの山科区のまちづくりの方向性
- 3 まちづくりの方向性を実現するうえでポイントとなるエリアの設定
- 4 5つのエリアの状況及び今後のエリアの方向性  
（京都刑務所敷地の活用案（導入機能・施設の展開例）を含む）
- 5 戦略の推進に当たって

御意見

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

【年 齢】 1 20歳未満（小学生 中学生 高校生 その他） 2 20歳代 3 30歳代  
 4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代 8 80歳以上  
 ≪○をつけてください≫

【性別】 男性 ・ 女性 ≪○をつけてください≫

【お住まい等】 1 京都市在住（区） 2 京都市通勤・通学（区） 3 それ以外  
 ≪○をつけてください≫

※ 御意見を取りまとめる際の参考にします。差し支えなければ御記入ください。

